



イラスト・山本英津子

コーヒーブレーク

「大雪山と旭岳」

旭岳は大雪山を代表する名峰

大雪山と旭岳は一緒なの、それとも別々の山なの？

この質問に正しく答えられる人は案外多くない。最初に答えをいえば、大雪山という単独の山は存在しない。一つの山に見えるが、北海道最高峰の旭岳（2,291 m）をはじめ、お鉢平おちだいらと呼ばれる大昔の大噴火跡のカルデラをぐるりと取り囲む、北鎮岳（2,244m）、白雲岳（2,230m）、愛別岳（2,113m）、黒岳（1,984m）など標高 2,000 m 級の山々の集まりだ。

大雪山系、大雪山連峰などと呼ぶこともあり、この場合は大雪山の山々に加え、トムラウシ山（2,141 m）や十勝岳（2,077 m）、富良野岳（1,912 m）までを指すことが多い。ただ、十勝岳周辺の山々を十勝岳連山などと呼ぶこともあり、決まったルールがあるわけではない。

いずれにせよ旭岳は大雪山を構成する山々の一つに過ぎない。ただし最も標高が高く、活火山で温泉があり登山客も多いことなどから、大雪山を代表する山として扱われてきた。

ちなみに長く 2,290m だったが、国土地理院による三角点の標高測定により、2008 年（平成 20 年）5 月から 1m 高くなった。本書では「旭岳」「大雪山」や「大雪山（旭岳）」といった表記が混在している。これまで説明した通り「大雪山（旭岳）」は必ずしも正確な表現ではないが、山に詳しい人以外も読むことを考えれば、「旭岳ふもとの東川町」ではなく「大雪山ふもとの東川町」と書いた方が、伝わりやすい時もあると考えるためだ。もちろん表記の正確さが求められる場合は「旭岳」「大雪山系旭岳」など厳密に書くことを基本とした。

読み方さまざま

一方、ルールが定かでないのは「大雪山」の読み方も同じで、「だいせつざん」、「たいせつざん」、「たいせつさん」などが混在している。国も読み方を統一しているわけではなく、環境省が所管する大雪山国立公園は 1934 年（昭和 9 年）の国立公園指定時から「だいせつざん」だが、国土地理院の「日本の主な山岳標高一覧」には大雪山に「たいせつざん」とふりがなが付いている。市販の地図も「たいせつざん」「だいせつざん」が混在する。

地域によっても読み方はまちまちで、例えば東川の「大雪（だいせつ）旭岳源水」なら濁点を付けるが、お隣の旭川市では「旭川大雪（たいせつ）クリスタルホール」、日本酒の「大雪（たいせつ）の蔵」、地名の「大雪（たいせつ）通」など、濁点の入らない例が多い。

このほかテレビやラジオでは、国立公園を指す場合のみ「だいせつざん」として、それ以外は「たいせつざん」と読むことが多いようだ。ただし大雪山系は「たいせつさんけい」となるから難しい。

愛好者それぞれにこだわり

「大雪山」という名前が文書に登場したのは、1899年（明治32年）の「日本名勝地誌 第九編 北海道之部（松原岩五郎著）」が最初とされる。そこには、「大雪山」の文字に「だいせつざん」と振り仮名がふってあるが、その次のページでは「たいせつざん」とも書いてある。著者の間違いか印刷工程でのミスなのかなど、詳細は今となっては分からず、読み方論争が迷宮入りする第一歩にもなった。

先住民族であるアイヌの人々が「ヌタブカウシペ」または「カムイミンタラ」などと呼んでいた名峰に、日本語で「大雪山」という名前がついてから約120年。どの呼び方にも長い歴史と使う人のこだわりがあり、いまさら確定させる必要はないのかもしれない。

皆さんは「大雪山」をなんと呼びますか。



東川町から見た大雪山